

大学における RDM 支援体制の構築

Organization structure and policy development for RDM support in universities

2020 年現在、オープンサイエンスや研究データマネジメント(RDM)の概念は、特定の学術分野の活動や政策などを通じ、大学執行部レベルにおいても認知が高まっている。しかしながら、多様な学術分野とステークホルダの核となる大学において、包括的な RDM 支援体制を構築することは、その意義から具体的な設備・組織構築まで多くの課題がある。

研究データマネジメント部会は、大学での RDM 支援の指針を示すべく、これまで「学術機関における研究データ管理に関する提言」、「大学における研究データ管理に関するアンケート(雛形)」を取りまとめ、公開している。また本年度はより具体的な提案として、「データポリシー策定ガイドライン」や「大学における RDM 成熟度モデル」の検討を進めている。本セッションでは、大学及び部会の活動報告を通じ、現在の大学を取り巻く RDM の状況について理解を深めるとともに、今後の指針について議論を深める。

The Research Data Management Subcommittee has compiled and published “Proposals for research data management at academic institutions” and “Templates or questionnaire for research data management at universities” to provide guidelines for establishing RDM support systems at universities. This year, as more concrete guidelines, we are developing the “Data Policy Formulation Guidelines” and the “RDM Maturity Model at Universities.” In this session, the progress of our activities as well as the case of organization development at university, will be reported, on which we will discuss for the future actions of the RDM group.

プログラム:

RDM 支援体制構築に向けた動き(各 15 分)

元木正和(東北大学), 岩井雅史(信州大学), 菊川昭治(愛媛大学)

データポリシー策定のイニシアチブ、モチベーションとガイドライン(15 分)

船守美穂(国立情報学研究所)

総合討論(30 分)

元木正和, 岩井雅史, 菊川昭治, 船守美穂

南山泰之(国立情報学研究所), 青木学聡(名古屋大学)